

いまから ここから おいから

～地域おこし協力隊 成果報告～

SDGs・カーボンニュートラル担当
荒木久美子(おいからちゃん)



おいから

ちゃん

“わたし”から

アクションを起こしたい！



地域おこし協力隊になったわけ

- みんながハッピーになる世界にしたい！
- 街の人との繋がりをつくりたい！
- 目標は薩摩川内市を「おいからちゃん」でいっぱいにする



「みんなが幸せな世界をつくりたい」——それが協力隊に応募した理由です。

この想いの原点は、関西での教員時代にあります。

私は中学校の教員として、さまざまな背景を持つ子どもたちや保護者と日々、向き合ってきました。

例えば、私が勤務していた自治体では、障がいの有無に関わらず、同じ教室で学ぶインクルーシブ教育を取り入れていました。彼らの学校生活を見ていて、ハンディがある子どもたちが地域とともに暮らしていくには、どんな関係が気付けたらいいのかなど、人の暮らしや地域との関わりについて考える場面も多かったです。

また、SDGsという言葉が出始めた頃から開発教育を実践する先輩教員の姿を見たり、教材研究の中で、昨年度のシンポジウムに登壇いただいた慶應義塾大学の蟹江教授の本に出会ったりしたことも、SDGsに興味を持つきっかけとなりました。

そんな中、2020年に夫婦の出身でもある九州に戻ることを決めました。

初めに移り住んだ場所は、SDGsに積極的な自治体の一つで、その取り組みに興味を持ちました。

そこで参加したワークショップでは、自治会について学ぶ「すごろく」作りを経験し、これが後に出前講座で活用した「サーキュラーエコノミー」に関するすごろくの制作にも活かされました。

そして2022年、鹿児島へ移住することにしました。

鹿児島の数ある市町村の中で、薩摩川内市へ移住した決め手は、夫婦ともに夢を叶えられるまちだったことです。

夫には「ここでやりたいこと」があり、私もSDGsやまちづくりなど興味があることを深掘りしたいと思い、薩摩川内市ならお互いが挑戦できる場所があると感じ、移住を決めました。

また、これから長く住むことを考えると、知り合いゼロのこのまちの人とつながるきっかけになればいいなという想いもありました。

そして、協力隊の採用にあたって、職員の皆さんがとても親身になってくださったことも、大きな後押しとなりました。

そんな私の協力隊として立てた目標は「この街をおいからちゃんいっぱいにする」ことです。

1年目

知る・知ってもらおう

- とにかく行く、とにかく発信
- 『『おいからちゃん』ってなあに！？』から広がる会話
- ★私は『地域おこし協力隊』！？



1年目は、とにかく自分が薩摩川内市を知ること、そして地域みなさんに自分の取り組みを知ってもらおうことを意識しました。

- 休日はイベントがあれば参加する
- 毎月の広報紙での発信だけでなく、SNSで発信する

など、とにかく行ってみる、とにかく発信する年になりました。

また、狙い通り「おいからちゃん」ってなに？という話になるので、そこからSDGsの話に広がっていきました。

そして、「高校生食堂」という地域の大人と高校生が地域活性化を行うプロジェクトに参加させてもらいました。

このプロジェクトへの参加がきっかけで、色んな世代の地域の方とつながることができました。

ただ、1年目は「自分は地域に属していないのに、協力隊としての役割を果たせているのか？」という迷いもありました。

2年目

つながる

- 出前講座やってくれない!?
- SDGsのラジオ番組やらない!?
- ★私は本当に『おいからちゃん』!?



2年目は、1年目に出会った方々との関係が深まり、出前講座など、「おいからちゃん、こんなことできる？」と声をかけてもらう機会が増えました。

特に私自身の気持ちや活動に大きく影響したのがSDGsに関するラジオ番組への出演です。FMさつまさんだいの河田さんと一緒に地域でSDGsに取り組む方を取材したりゲストとしてお招きして紹介する番組です。今月30日の朝9時にも今年度の最後の放送があるので聞いてください。積極的にSDGsに取り組む方たちを取材するために、これまで以上に多くの方と出会いました。

一方で、地域の方々のSDGsの取り組みを取材すればするほど、「自分自身は何かできているのか？」という思いが強くなりました。そこで、まずは「自分の生活の中でできることを探そう」と考えました。その一つが我が家が出るプラスチックごみを1週間調べることです。すると、現時点でプラスチックゼロの生活はできないけど、必ずしもプラスチックを使わなくても他のもので事足りることは使わないようにするなど、自分の身近なことを見直すことができました。

この取り組みをSNSで発信したところ、結果として、「これならできそう」、「あれ、いいね」という声もあがり、地域の方と身近なSDGsと一緒に考える機会が増えました。

3年目

つなげる

- ★地域のSDGsは続くから・・・
- 地域の顔が見える情報発信・出前講座
- 教えるのではなく、一緒に考える出前講座
- つつい伝えたくなる出前講座



最終年度は、「どうすれば地域の取り組みをもっと知ってもらえるか?」「持続して続けてもらえるか」を意識して活動しました。

出前講座では、地域の人の顔が見える形にすることを大切にしました。

例えば、夏休みに小学生と新聞紙エコバッグを作る機会がありました。

作り方はYouTubeを見れば分かるんですが、高江町にある「カフェちょこっと」という障がい者の就労施設では、利用者さんのリハビリとしてエコバックを作成していること、それをお買い物袋として使っていることを聞いていたので、実際に作り方を教えてもらい、その作り方で小学生とつくり、「ちょこっと」についても話をしました。

身近な人の取り組みを加えることで、これまで以上に地域の取り組みも含めてSDGsに関心をもってもらえたように思います。

また、毎月の広報紙のクイズもそうですが、出前講座では一方的に知識を「教える」のではなく、防災やユニバーサルデザインなど、衣食住に関することを題材に、「一緒に考える」ことを大切にしました。

参加者同士が話し合ったり、身体を動かすような内容を1講座一つは入れることで、参加者同士で考える時間を作りました。その結果、「SDGsは身近なことなんだね」という感想も多くいただくようになりました。

成果と結果

- 「これもSDGsかな!？」
- 「知っているよ!」から「やっているよ!」
- 「せっかくだから行ってみようかな!」
- 町の至る所でSDGsの話をしている!?



1年目は、「SDGsって何?」「国がやってるやつでしょ」というあまり関心のない声が多く聞こえてきましたが、2年目になると、「どこの●●さんがSDGsをやっているよ」とSDGsを気に掛ける声が増えました。

3年目になると、「私、こんなことしてるけど、これもSDGsだよな?」と自分ごととして考える人が増えたように感じます。

この写真は、地区ゴミ便りに地区の取り組みはSDGsだからと、SDGsのアイコンを載せてくれる地区があったり(写真右上)、SDGsを地域の子どもたちにも広めたいという想いから、自作の看板を背負って清掃活動に取り組む方です(写真左下)。

この方は、出前講座を受講いただいたことをきっかけに市民勉強会やシンポジウムにもご家族で遊びに来てくれました(写真右下)。

また、お世辞かもしれませんが、市内で地域に関わるお仕事をしている方から、「おいからちゃん」というワードを地域で良く耳にしているというお話を聞きました。

ということは、薩摩川内市のいたるところでSDGsの話がでているのかなと思います。

■「一緒にやろうよ！」



「あなたも来れば良かったのに。いい話だったよ」と午後からのグラウンドゴルフ大会の休憩中にも話が出るくらい、みなさん喜んでくださっていました。早速、付けてくださっている方もいらっやって、ブレスレットも自慢されていましたよ。

また、最後の出前講座では、これまで少人数で取り組んでいた内容を大人数でやりたいという話をいただきました。

私は、少人数でもてんやわんやで取り組んでいたのが、別の内容にしないか提案したのですが、「私も一緒にやるよ、地域の方も手伝ってくれるといっているから、事前に教えて。一緒にやろう」と言ってくれました。

当日、ふたを開けてみると、事前にご協力いただく予定だった方以外にも、たくさん手伝ってくれる方がいて、みんなでつくった出前講座となりました。

活動の中で、「自分事として楽しく一緒に取り組む」ことをモットーとしていたので、一緒にやろうという言葉がとても嬉しかったです。

また、一人では難しいことも、誰かと一緒だとできるんだと改めて教えられました。

講座後に頂いたメッセージには「あなたも来れば良かったのに、いい話だったよ」と午後からのグラウンドゴルフの際にも話が出たというもので、講座に参加して下さったみなさんが、「伝える側」になってくれていることも知りました。

また、来週は高齢者サロンでブレスレットづくりをされるそうで、防災グッズの備えやリストなど、先日の講座に来られなかった方たちにも意識してもらえるようにお話いただけるとのことで、どんどん「まちのおいからちゃん」が増えています。



この3年間、不安や悩み、失敗もたくさんありましたが、皆さんとの出会いの中でみなさんに「おいからちゃん」にてもらえたと感じています。

はじめは、名前も知らないまちでしたが、地元に戻って話をすると、いつのまにか「うちのまち」と呼べるまちとなりました。今では、「気になるまち」から「好きになるまち」になったと思います。

今月で隊員としての生活は終わり、また新たな職場で働くこととなりますが、形は違えど、これまでに出会ったみなさんとのつながりを大事に薩摩川内市や地域のみなさんの取り組みを市外にも広げていきたいと思っています。今後も薩摩川内市に住んでいるので、また皆さんとお会いできますことを楽しみにしています。

最後になりましたが、市のみなさん、地域のみなさん、3年間、本当にありがとうございました！